名古屋西南ロータリークラブ
Weekly Report

安江英雄会長年度テーマ
継続は力、 協力は強力
例会場 名古屋クレストンホテル TEL 052-264-8000
例会日時 木曜日 12:30
クラブ会報広報委員長 二俣景一

2006-07 年度 R.I.会長
ウィリアム B. ボイド

承 認 1995.3.28
会 長 安江英雄
幹 事 後藤 敞
事務局 名古屋市中区栄 3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007 号
TEL 052-263-1324
FAX 052-263-0730
Email seinan1@fancy.ocn.ne.jp
HP http://rc.nagoya-seinan.org/

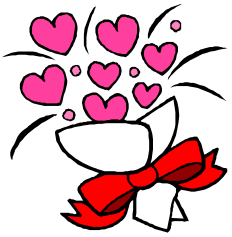
第548回例会 No. 9 平成18年9月7日(木) 曇	
ガバナー補佐訪問	
■ ロータリーソング	「君が代」「それでこそロータリー」
■ 出席報告	会員48名中40名出席
■ 出席率	88.89% 出席計算人数45名
■ 修正出席率	8月24日 93.18%
■ ゲスト	片山主水西名古屋分区ガバナー補佐 酒井法丈地区副幹事

会長挨拶 安江 英雄

本日は、片山主水ガバナー補佐と酒井法丈地区副幹事をお迎えしての例会です。ありがとうございます。
先回迄は薬味の話しでしたので、今回は蕎麦の話しをしたいと思います。一般に「田舎そば」と言えば、さらしなそばの対極にあるそばと位置付けられています。白く細い繊細な風味の「さらしなそば」に対して太めで黒っぽくそばらしい味わいの濃いそばが「田舎そば」そして両者の中間にあるのがいわゆる「並そば」ということになる。要するにそばの色と太さによるおおざっぱな区別、定義である。また田舎そばは「山家そば」とも呼ばれます。これは私の店で昭和 50 年～60 年頃まで薄くのばして少し幅広く(きしめんとうどんの間の太さ)に切ったものを山家そばとして販売させて頂きました。これは江戸風そばに対する地方のそばと言う意味合いである。この場合の地方とは農山村を指すが、とりわけ山里のイメージが濃い、それはそのまま江戸風そば(洗練されたそば)とは反対の無骨なそばと言う意味であり田舎そばという言い方よりもさらに都市と地方(田舎)の対照を際立たせた言葉とも言えます。この無骨なそばも見方によれば野趣のあるそばになる。
ところで、田舎そばという言葉はいつ頃からあるかということになるとはっきりした時代はわかっていない。
蕎麦を食べる時、蕎麦を昔は「田舎そば又は蕎麦切り」といったこれは最初に粉食から始まった「そばがき」「そば餅」「そば雑米」と区別したのであって麺にするために「包丁切り」にしたからであります。「包丁切り」はいつからどこで始まったかは漠然としてまだ決め手がない。
いずれにしても中部日本、特に信州という文献は多いのです。蕎麦切りの発祥地を信州本山宿(中仙道の洗馬と贄川との間にあった宿駅で板橋から数えて 33 番目にあたる現在の塩尻市東贄である)とする説と甲州(現在の山梨県)より「そば切り」が始まったという説がありますが、その時期さえ明確でなく我が国における蕎麦切り発祥の地とみなすことは無理であると、それゆえ本山説と山梨(甲州)説のどちらが正しいかの詮索よりも、甲信地方で蕎麦切りが行なわれたという事実にとどめておくと各文献で言われています。ただし、うどんをまねてそばを切ったとされるのも事実の様です。 (新島 繁 著 蕎麦史考より)

9月の祝福

誕生日		結婚記念日
1日	北折さんご夫人	なし
3日	西川さんご夫人	
4日	北折さん	
6日	土岐さん	
12日	浮貝さんご夫人	
14日	鈴原さんご夫人	
17日	渡邉さん 二俣さん 丸山さん	
20日	石田さん	
23日	加藤(満)さん	
27日	渡邉さんご夫人	
30日	川合さん	



ニコBOX

片山主水西名古屋分区ガバナー補佐
ガバナー補佐訪問に参りました。

●本日は「ガバナー補佐訪問」です。片山主水ガバナー補佐、酒井法丈地区副幹事にはようこそお越し下さいました。心より歓迎申しあげます。 安江会長、長谷川、和田、日下、藤野、池井戸、中村、鈴原、服部、西川、林、加藤、矢野、岩田、松尾、西垣、河原、中野、磯部、中川、森田、吉田、渡邉 (敬称略)

水野国際奉仕委員長 カンボジア事業に寄付を有難うございます。皆様のお気持ちをお伝えさせて頂きます。

北折さん 長いこと休みました。お許し下さい。

●9月は私の誕生月です。お祝いを有難うございます。
二俣、丸山(敬称略)

本日合計 67,000円

委員会報告

●クラブ会報広報 委員長 二俣景一

今後、名古屋西南RCにおいて最重要課題である会員拡大を推進するために、クラブ会報広報委員会で見直す点

はすみやかに行動に移し、継続すべき点は全会員共通の認識のもとに確認しあう事が大切であると考え、まず手始めとしてアンケートを実施致しました。
アンケートから読み取れることは以下の通りです。

○ クラブ発行のウィークリーに対してはメンバーも必要性を感じていて、ロータリーの友やガバナー月信に対するのとは違う愛着感を持っている。
○ 地区でのアンケート結果と比較してみると、当クラブでのメール配信希望者は非常に多い。(回答者34名中21名)
○ 回答するなかで「どちらでもよい」と回答される方が約半数を占め、協調性の強いメンバーが多いクラブである。
○ ガバナー月信をほとんど見ない方が約半数を占める。
○ ガバナー月信について、購読料を上げて以前の印刷配布に戻したことに対し60%以上の反対がある。
○ その他ご意見

1. 例会中に伝えきれない部分を会報に積極的に載せてみたら有効活用できるのではないか
2. ウィークリーは私のロータリーの歴史です
3. 現状で不都合を感じていないですが
4. メールで送ってくださいね
5. 基本的に地区の情報等は知る必要があります。希望者のみにお渡ししてはどうでしょうか？伝統は伝統として続ける必要があります。何もかもなくす事は疑問です。
   予算が足りなければ会費を上げれば良いと思います。
6. 積極的なご提案です。よろしくお願いします。
7. 皆様のご意見に従います。メールはやっていません。
8. (HPの)ウィークリーの閲覧及び個人情報についてはパスワード等にてある程度制限したらどうでしょうか。

ガバナー補佐 講 話

西名古屋分区ガバナー補佐 片山 主水

ご紹介いただきました本年度西名古屋分区のガバナー補佐を仰せつかりました、名古屋東南 RC 所属でございます、片山主水といいます。

早いものでして新年度すでに2ヶ月以上経ちまして、新年度ばかりではなくて 21 世紀という大きな節目もすでに6年過ぎ、記念すべきロータリー100 年という年も、去年の万博の中であっという間に過ぎてしまいました。本来ならば、100 年も経ったロータリーの現状を分析し、反省し、21 世紀のあるべき姿というものを考え、21 世紀の奉仕というのは今までのような奉仕の形でよいのか、ということも含めて討議をしなきゃいけないということを皆さんも感じておられるでしょうし、私も感じております。幸いにして今年のR1会長は「Lead The Way 率先しよう」遂巡していては駄目だ。道なき道を切り開き道ある時はその道を先導しようということを言っておられる。
本年度の斎藤ガバナーは「Lead The Way」というところをクラブ方針のところに焦点をあてまして、原点回帰ということを言っておられます。一緒にしますと原点回帰を率先しよう、ということになるわけです。そしてクラブ奉仕に徹しようと言っておられます。では何が原点かというと言っておられないわけです。その原点というものを皆で討議して議論していっぺん探してみてほしいと言っておられるわけです。そこで原点を探してみたいと思うのです。
一体全体何がロータリーの原点か。議論をしてと言いますが、議論をする場がない。地区には何々委員会というのがたくさんあります。たくさんありすぎて困る程あるのですが、こういう原点、ロータリーの根本は何か、ロータリーの精神は何か、奉仕のというものはどうあるべきかと議論する場がない。場がないばかりではなく、そんな難しいことはどうでもいいじゃないかと、仕事の上での話なら一生懸命議論をしなきゃいけないけれども、たかがロータリーの親睦と奉仕の話に時間とお金を使って深刻に議論をする必要はないのではないか。という議論が片一方にあるのでなかなか本論に入っていけない。しかしここはひとつ「Lead The Way」、率先しよう。まずやってみよう。ということです。その原点探しをまずやってみよう、原点探しだけではなくロータリーの勉強をしてみよう。
それが次にガバナーが言っておられる「ロータリーを学ぼう」。勉強しよう。その受け皿として地区に今年新しく研修委員会というものを作りました。その下にもう一つロータリー情報委員会というのも作られた。そこで一度議論をしましょうということです。
原点というものは初心というのともちょっと違う。原点回帰というのは初心に還るというのとよく似ていますが、初心というのは主に主観的なことですけども、原点は主観も入りますが、当時の制度とか仕組みだとか行事だとかそういうものも含めたもの。この原点を洗い出して取捨選択をして、ロータリーの原点として位置づけよう。その原点から色々変化してきたものがあるわけですが、その変化してきたものを許容すべきなのかすべきではないのか。そんなものはロータリーとして相応しくない行事だ、仕組みだ、やり方だということになれば容赦なく捨てる。
そうして 21 世紀に向けての新しい原点をこの時点で確立しようではないか、というのがおそらくガバナーのお考えです。「その精神(こころ)を受け継ぎながら」とガバナーの基本方針に書いてある。「その精神(こころ)を受け継ぎながら」。“その”というのは原点。原点の精神(ここ

ろ）を受け継ぎながらということです。だから将来のことをきっと見据えておられる。
それがガバナーの方針であるということを申し上げておいて、原点の一つとしてロータリーの綱領についてお話をさせていただきたい。綱領とは何かというとObjectと書いてありますから目的です。皆さん目にして多少読まれたことがあると思うのですが、腰を落ち着けてきちんと最初から最後までこの綱領を読んだことがあるかというと、あまりないと思います。私は職業柄ロータリーに入会した時から何遍も読んでいる。読むたびにどういう文章だ、どういうまた下手な文章だ、意味が分からないじゃないか、と。分からないのも道理。直訳しているから。ですからどうしても原文を対比した上で解釈しなければならない。そこで参考までにお手元には原文が拾い上げてあります。ちょっと講義のようですが読んでみましょう。
ロータリーの綱領は有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある。第1、奉仕の機会として知り合いを広めること。第2、事業及び専門職の道徳的水準を高めること。ちょっととばします。**第3、ロータリアン全てがその個人生活、事業生活及び社会生活に常に奉仕の理想を適用すること。第4、奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること。**こういうふうに書いてあるわけですね。ボヤーと分かったようで一つずつ詳しくやると、どういうことだろう？ということになる。
もう一度冒頭に戻ります。原文は「The Object of Rotary」と書いてありますからロータリーの目的は、ということですね。「is to encourage and foster」これはまあ鼓吹という言葉なんて使わないですけどまあ意味が分かりますからいいでしょう。次の「the ideal of service」というのが奉仕の理想ですが、奉仕の理想という言葉は非常に耳障りのよい言葉でして、何となく分かったようなのに、「奉仕の理想」ってどういうこと？もしこれが日本的な言葉にするとしたら、「理想的な奉仕」だとか「奉仕が理想とするところ、目的とするところ」というような言葉になるのですが。「奉仕の理想」などという日本語として奉仕と理想が「の」で結ばれて出てくることはあり得ない。奉仕の理想。理想的な奉仕なのか奉仕が理想とする所なのか。ところがこの「the ideal」という言葉を辞書で引きますと「奉仕」とでてくる。けれどもこの「ideal」を理想と訳するから間違っている。これは理想ではなくて、心、アイデアというものの変形です。「心、考え」と訳してみますと、「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し」という続きになってくる。そうすると今度はちょっと分かったような気になる。では次に「有益な事業の基礎として奉仕の心を鼓吹する」というのもちょっと分からないことですが、その前に実は「奉仕の心、奉仕の理想とは奉仕の心としますよ、奉仕の心が事業の基礎として非常に有益である。奉仕の心というのが事業を遂行していくうえに非常に有益である。」そういう奉仕の心を会員の皆様に鼓吹する。啓蒙するといいますかね。
原文の方をみますと、「the ideal of service as a basis of worthy enterprise」と書いてある。これをそのまま仮に訳したとしても「basis of worthy enterprise」事業の基礎としてのサービスと本来は訳した方がいい。「as a basis of foster」は「encourage and foster」と続くのではなくてserviceの修飾語である。asというのはだいたいisということと同じ意味で、「〜である」ということです。serviceが「basis of worthy enterprise」ということである。そういう意味ですから。奉仕の心が「worthy enterprise」の基礎である。そういう考え方を「foster」というのは鼓吹しましょう。育成しましょう。「encorage」しましょう。
そうすると大体分かる。奉仕の心というのが事業の繁栄にとって重要で基礎となる。というふうに読み取れるわけです。そうするとロータリーの綱領、現在の綱領は奉仕の心が事業と密着に関連しているな、というところからロータリーは職業奉仕を第一に考えていることがわかる。
原文では「and」でつないであります。「and, in particular, to encourage and foster:」でfirst、secondと続くのですけども、「and」というのはどういうことかというと、「and」より前の文章と「and」より後の文章がどちらも強調するのではない並列の関係にある。重みとして一緒、並列の関係にありますよ、という時が「and」なんです。1行の文章に書かなければならないから前後関係が出てきますが、並列ですよ、ということです。
それであるのに、「in particular」「特に」と書いてある。そんな馬鹿なことがあるか、と頭の中が混乱します。並列なら並列のように書いてもらわなければ困る。並列と言っておいて「特に」なんてそんな馬鹿なことがあるか。「特に」というなら前に書けばよいじゃないかとなります。訳語として「in particular」というのは「特に」だろうか。それはガバナーが言っておられるように原点回帰なんですよ。原点に還ってみると、「particular」の原点は何かというと「part」ということなるんです。「part」というのは一部分。ですから「in particular」というのは「個々的にいうと」ではないかということが初めて分かってくる。だから「特に」なんていうのは誤訳である。「個々的にいうと」だとすると、「and」の前は抽象論を言ったか、なるほどそれで「and」の後は具体論を言ったのか。こういうことが頭の中で整理ができる。
だから、「個々具体的にいうと次のような項目を鼓吹、育成することにある」一つが「奉仕の機会として知り合いを広める」次が「事業及び専門職の道徳的水準を高めること」それから3番目は「適応することというのは奉仕を実践するということ」第4番目は「国際奉仕」が書いてある。この1・2・3・4がクラブ奉仕であり職業奉仕であり社会奉仕であり国際奉仕である。こういうことを言われるわけですが。それについても私は異論がありますが、そういう解釈ができる。できますが、その第1を見てください。「奉仕の機会として知り合いを広めること」「development of acquaintance as an opportunity for service」と書いてある。「acquaintance」というのは「知り合い」で良いですが、奉仕のための機会として、やはり、「の」ですね、「の、acquaintance」友人をdevelopment、広めるでも深くするでもそういう意味ですね。この文章が奉仕の機会として知り合いを広めることではないので、そこで「の」をいれて

もらうと知り合いというのが奉仕の一つのきっかけになるのだと、そういう知り合いを広めること、深めることですよ、ということです。
だけども、皆さんが今例会に出てきて acquaintance を超えて友人になられて親密になられてというのが奉仕の機会だけを求めての友人でしょうか。そんな馬鹿なことをロータリーはやれというのか。という疑問があるのです。いやいや本当に心の繋がりを求めて例会に出てきているのですから、こんな無味乾燥な奉仕の機会としての友人なんてそんな馬鹿なことはありえない。だから私はこの第1に対してものすごく不満があるのです。
第2はまたものすごく良い文章です。「事業及び専門職の道徳的水準を高めること」もうこれ1つだけでよい。道徳的水準というのはもちろん法的に触れてはいけない。道徳的というのは安かろう悪かろうであっても駄目だし、人を騙したりというようなことも駄目。相手の窮状に乗じて暴利をむさぼるのも駄目。とにかく品質の良いもの、人より良いもの、自分の精神のこもった技術のこもったものを供給する、作って売るということがやはり道徳的水準を高めることです。何でも法に触れるだけのことじゃない。その仕事自体の中身の質を向上させることも道徳的水準を高めることでしょう。ということですから、第2の「事業及び専門職の道徳的水準を高める」ということが奉仕の心です。
ここで一番初めの文章に還ってくるわけです。奉仕の理想の中身というのはこういうものが入った奉仕の心。高い道徳的水準や職業の心を持った奉仕の心を持って事業を遂行していくということが事業の繁栄の基礎になる。このように繋がっていく。
そうすると、「本当に真剣な奉仕の心を持ってやるとするならば、何も事業の繁栄だけの基礎ではないのではないか。人間が生きるために、人生を生きるために本当に真面目な心を持って奉仕をする。そういう心を持って生きることは人生の幸福にとって非常に有用なのではないか。」どなたにも異論がないと思います。
そうだとすれば、このロータリーの綱領が有益な事業の基礎として奉仕の理想だけを取り上げて人生の幸福について言及しないというのは片手落ちではないかと思っています。これもちょっと不十分なロータリーの綱領ではないかと思っています。

それから第2のところについて言えば、後のことは今の水準を高めることだけでもう十分だと思います。
ロータリーが言っている職業奉仕というのは今いいましたように道徳的水準、品質的水準の高い奉仕の心を持って事業を遂行すること自体が職業奉仕。ある技量をもって社会奉仕をするというのは職業奉仕ではないです。一般の言う社会奉仕です。ロータリーでいう職業奉仕というのは、質的に高い心を持って自分自身の職業を遂行する。これが職業奉仕。だからそれはクラブがやることでも何でもなく、自分自身が職業を遂行すること自体が職業奉仕だ。ということをこの綱領が言っているわけです。
私は、それはそれで立派でよいことだと思います。今世間でコンプライアンスだとか法令遵守だとか言っています。が、皆さんに今お配りしたロータリーの綱領というものは今から70年も前にすでに確定的な文章になっているのです。一部変わったところもありますが、本質に関わらないところです。そういうわけでこの職業奉仕の考え方というのは、他のどの奉仕団体にもましてロータリーの一大特色であり、ロータリーの原点、本当の原点ではなかろうか。原点といっても時期的な原点ではなく、考え方としての原点ではなかろうかと思うわけです。
力が入りすぎましたけれども、ロータリーの綱領とこれだけで終わるわけではなく、「超我の奉仕」との関係はどうなっているのか。ロータリー精神と言うけれども、ロータリー精神と綱領とどういう関係があるのか。あるいは標語で「最もよく奉仕する者は最もよく報われる」というものがありますがその関係はどのように考えればよいのか、と色々な問題がありますけれども、今日はロータリーを勉強するというほんの糸口をここで紹介させていただく、そういう機会を得ましたことを本当に嬉しく思っています。
堅苦しい話で 20 分ばかりお話いたしました。ご静聴を感謝いたします。これをもってガバナー補佐の講話とさせていただきます。大変ありがとうございました。

クラブアッセンブリ

2006年9月7日　13：35～15：00　クラウンルーム
出席者　：　片山ガバナー補佐、酒井地区副幹事、安江、渡邉、吉田、池井戸、大平、中村、水野、藤田、藤野、磯部、近藤、日下、川崎、長谷川龍伸、二俣、石井、中川、森田、河原、森、長谷川千廣、松尾、岩田、後藤、中野
◎議事録は後日掲載致します。

理事役員会議事録

2006年9月7日　15：00～15：30　クラウンルーム
出席者　：　安江、渡邉、吉田、池井戸、大平、中村、水野、藤田、藤野、磯部、近藤、後藤、中野
議題：
1．入会承認の件　　丘　博文氏
2．ＧＳＥ派遣メンバーホームステイ受入の件
3．その他　敬老祝い

☆☆次回例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
9月22日(金)　第550例会(例会変更)
「ｶﾞﾊﾞﾅｰ公式訪問」 名古屋みなとRC合同例会
名古屋マリオットアソシアホテル　12:30～
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆